

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 2008年1月22日

1. 概要

実践団体名	国立大学法人山口大学・地域防災ユニット	
連絡先	電話番号	083-933-5833
プランタイトル	水害常襲地における水防災教育プログラムの開発と実践ー平成17年台風14号で被災した山口県美川町を事例にー	
目的	錦川の水害常襲地の美川町南桑地区を対象に、水害を回避・減災するための水防災教育プログラムを美川中学校と共同で開発し、地域の水防災力の向上を図る。	
プランの概略	水害を回避・減災するための水防災教育プログラムを美川中学校と共同して開発し、総合的学習において利活用し、地域と中学校が協働して地域の水防災力の向上に向けた活動を実施する。	
プランの対象	中学生、25人（前年度の美川中学校の全校生徒は30人であったので、申請時は30人）	
実施日時	平成19年8月9日、8月31日、9月6日、10月15日、10月27日	
実施場所	国立大学法人山口大学、岩国市立美川中学校	
連携した団体	連携団体の有無	有
	連携した団体	岩国市教育委員会・美川総合支所、山口県総務部防災危機管理課・土木建築部、山口県社会福祉協議会、山口県教育委員会
	連携したきっかけ・理由	代表をはじめ地域防災ユニットの教員が山口県防災会議防災対策専門部会委員であり、2005年台風14号に伴う水害発生の調査研究の際にも協働で調査研究を実施したことによる。
	連携団体へのアプローチ方法	山口県防災会議防災対策専門部会委員、県内の防災研究者として日頃から連携団体と協働で調査研究を実施している。
	連携団体との打ち合わせ回数	岩国市教育委員会・美川総合支所（5回）、山口県総務部防災危機管理課・土木建築部（8回）、山口県社会福祉協議会（3回）、山口県教育委員会（1回）
	連携団体との役割分担	岩国市教育委員会・美川総合支所（実施補助）、山口県総務部防災危機管理課・土木建築部（防災情報提供）、山口県社会福祉協議会（実施内容の助言）、山口県教育委員会（実施助言）

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

2. プランの立案過程

プラン立案メンバーの人数と役割	団体内のスタッフ総人数	12人
	外部スタッフの総人数	18人
	主なメンバーの役職・役割	山本晴彦(代表・プラン立案の総括)、村上ひとみ(委員・実践プラン立案)、野小生 守(委員・プラン立案の補助)
プラン立案に要した日数・時間	立案期間	平成18年11月1日から平成19年1月15日
	立案時間	60時間
	上記のうち打ち合わせ時間	15時間
プラン立案で注意を払った点	<ol style="list-style-type: none"> 中学生を対象とした防災教育の実践的プランであることから、高度な学習教材を用いると理解出来ずに、十分な教育効果を発揮することが困難となる。このため、中学生にも理解しやすく、無理のない水防災教育プログラムの開発と実践の内容の立案に心がけた。 本プランの終了後、他の水害常襲地の学校でも、多くの内容が独自に実践できる水防災教育プログラムの開発に注意を払った。 	
プラン立案で苦労した点	<ol style="list-style-type: none"> 防災教育チャレンジプラン活動助成金以外からの収入の確保(防災教育チャレンジプラン活動助成金30万円に、チャレンジプランへの支出が可能な資金を確保する必要がある。このため、(財)日本教育公務員弘済会の補助金の一部を本プランの活動資金の当てることが出来るように奔走した。) 美川中学校、岩国市美川総合支所、岩国市教育委員会等とのプランの打合せ(本プランの応募時には、実施日時、防災教育内容、支出事項等の内容を確定しておく必要がある。メールや電話以外に、直接を訪問してプランの内容が実施できるかを協議すると共に、中学校のパソコンルーム・体育館・教室、避難所の視察も行い、応募締め切り時までの限られた時間でのプラン立案に苦労した。 本プランでは、大学での最新の観測機器を防災教育に実践することを目指している。本来は研究調査に用いる観測機器であるので、実施日に機器の使用が重ならないように日程調整を行うことに苦労した。 	

2007 年度 防災教育 チャレンジプラン 最 終 報 告 書

3. 実践にあたっての準備

準備に 関わった方と 人数・役割	団体内の スタッフ総人数	22 人
	外部スタッフの 総人数	30 人
	主なメンバーの 役職・役割	山本晴彦（代表・実践準備の総括）、村上ひとみ（委員・実践準備）、高山成（委員・学習教材開発）、岩谷潔（委員・学習教材開発）、白水隆之（委員・実践準備の補助）、東山真理子（委員・実践準備の補助）、原田陽子（委員・実践準備の補助）、兼石篤志（委員・実践準備の補助）、土谷安司（委員・実践準備の補助）
準備に要した 日数・時間	準備期間	平成 19 年 4 月 1 日から平成 19 年 8 月 8 日
	準備総時間	160 時間
	上記の打ち合わせ回 数	16 回
教育関係への 働きかけ	働きかけた 教育関係者・機関名	岩国市教育委員会 山口県教育委員会
	どのように 働きかけたか	岩国市立美川中学校から岩国市教育委員会、代表者から山口県教育委員会へ、協力を働きかけた。
	結果	山口県教育委員会へは、本プランを実施していることを把握してもらった。 本プランを実施していない岩国市内で、水害を受けた御庄中学校での実践後のアンケート調査を実施することの承認と御庄中学校への依頼を岩国市教育委員会が行った。
地域への 働きかけ	働きかけた 地域の人・機関名	岩国市美川町美川総合支所 山口県総務部防災危機管理課・土木建築部 山口県社会福祉協議会 他
	どのように 働きかけたか	岩国市美川町美川総合支所、山口県社会福祉協議会へは、水害後の調査研究で連携していることから、直接働きかけた。 山口県総務部防災危機管理課・土木建築部へは、山口県防災会議専門部会での指導や連携もあることから、直接働きかけた。

2007 年度 防災教育 チャレンジプラン 最 終 報 告 書

	結果	<p>岩国市美川町美川総合支所からは、雨量計の設置場所の提供、市が指定している避難所への現地調査を了解してもらった。</p> <p>山口県総務部防災危機管理課・土木建築部からは、山口県土木防災情報システムの水害時の観測データの提供を受けた。</p> <p>山口県社会福祉協議会からは、高齢者への水害に関する聞き取り調査、避難所の調査に関して、アドバイスを受けた。</p>
保護者・PTA への働きかけ	働きかけた 保護者・PTA 組織名	<p>岩国市立美川中学校 PTA</p> <p>岩国市立美川中学校における生徒の保護者</p>
	どのように 働きかけたか	実践校の岩国市立美川中学校を通じて、本プランの内容についての説明を行った。
	結果	岩国市立美川中学校で、総合的な学習時間において本プランを実施することについて、PTA と生徒の保護者から理解を頂いた。
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	気球空撮システム、GPS 解析ソフトウェア、デスクトップパソコン、液晶プロジェクター等
	入手先・入手方法	代表者の山本晴彦研究室が所有する機器を使用した。
	機材教材の選定理由	本プランの内容を実践するために、使用した機材の選定が最も有効であると判断した。
参加者の募集	募集方法	岩国市立美川中学校を本プランの実践校としたため、一般には参加者の募集は行っていない。
	募集期間	なし
	参加予想人数	25 人
	実際の参加人数	25 人（1 年生：8 人、2 年生：6 人、3 年生：11 人）
	募集方法の成功点	—
	募集方法の失敗点	—
準備で 苦労した点 工夫した点	<p>実践校を行う岩国市立美川中学校は、山口大学から約 85km（車で約 1 時間半）も離れており、実践がスムーズに実施出来るように、当日の使用機材、防災関連の調査用品、テキスト等の教材の準備不足に細心の注意を払った。</p> <p>気球空撮は野外で行うため、雨天の場合は実施できないので、その際の補助的な実習のプラン立案に苦労した。</p>	

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

4. タイムスケジュール

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2007年 5月	「まちの雨量を測る」のプラン立案		
2007年 6月	「気球空撮システムを用いた美川町南桑地区における複雑地形の把握」のプラン立案	簡易雨量計、簡易記録電圧計、雨量計設置機材一式の購入	
2007年 7月	「国土数値情報を用いた美川町南桑地区における複雑地形の把握」のプラン立案	メディア教育棟演習室の利用許可、防災情報を閲覧するための簡易HPの作成、雨量・浸水モニタリングシステムのデータファイルの作成	7月10日：美川町内5ヶ所に独自に簡易雨量計の事前設置
2007年 8月	「高齢者への聞き取り調査と水害資料から水害を回避・軽減するプランを提案する」のプラン立案	気球空撮システムの撮影準備、国土数値情報の購入と解析準備	8月9日：「まちの雨量を測る」の実践 8月31日：「2005年14号台風災害を知る」、「気球空撮システムと国土数値情報を用いた美川町南桑地区における複雑地形の把握」の実践
2007年 9月	「美川町南桑地区における浸水痕跡と避難所の調査」のプラン立案	美川町南桑地区における浸水痕跡と避難所の調査のための機材準備、デジタル地図の作成	9月6日：「高齢者への聞き取り調査と水害資料から水害を回避・軽減するプランを提案する」の実践
2007年 10月	「美川中学校文化祭」のプラン立案	防災学習の中間まとめのサポート（10月5日）、美川中学校文化祭、アンケート調査の打合せ（10月14日）	10月15日：「美川町南桑地区における浸水痕跡と避難所の調査」の実践 10月27日：「美川中学校文化祭」の実践
2007年 11月			11月2日：「アンケート調査」の実践
2007年 12月			
2008年 1月			

**2007年度防災教育チャレンジプラン
最終報告書**

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 実践の詳細【C. 総合的な学習時間】 (メインとなる活動を45分1コマとして記入してください)

タイトル	まちの雨量を測る			
	雨量・河川水位情報を知る	雨量・河川水位情報を解析する	雨量計や気象観測装置の仕組みを学ぶ	美川町の雨量を測る
実施日	2007年8月9日	2007年8月9日	2007年8月9日	2007年8月9日
所要時間	45分	45分	45分	30分
達成目標	インターネットや携帯端末で防災情報を閲覧し、水害の回避・軽減のための利活用について考える。	雨量・浸水モニタリングシステムのデータを解析し、利活用を提案する。	最新の気象観測に関する測定原理について理解する。	美川町内に独自に設置した簡易雨量計から雨量データを回収し、降水の特徴を分析する。
生成物	水害の回避・軽減のための防災情報の利活用に関する提案	説明用パワーポイント、雨量・浸水データ解析結果	説明用パワーポイント	雨量データの解析結果
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットや携帯端末で防災情報を閲覧 ・ 水害の回避・軽減のための利活用を提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨量・浸水モニタリングシステムのデータ解析 ・ 雨量・浸水システムの利活用を生徒が提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最新の気象観測に関する測定原理を理解 ・ 雨量計の測定原理の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡易雨量計のデータ回収 ・ 雨量データの解析
ツール (特別に用意したもの)	雨量・浸水モニタリングシステム (山本晴彦研究室が美川中学校のグラウンドに設置しており、雨量と浸水深をインターネットと携帯端末で閲覧できる。)		雨量計、簡易記録電圧計、豪雨時警報装置	簡易雨量計、簡易記録電圧計、雨量計設置機材一式
場所	山口大学農学部 メディア教育棟演習室	山口大学農学部 メディア教育棟演習室	山口大学農学部 学生実験室	山口大学農学部 学生実験室

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 実践の詳細【C. 総合的な学習時間】 (メインとなる活動を45分1コマとして記入してください)

タイトル	2005年14号台風災害を知る	気球空撮システムを用いた美川町南桑地区における複雑地形の把握		
		気球空撮システムを理解する	気球空撮システムを揚げる	気球で空撮した画像を解析する
実施日	2007年8月31日	2007年8月31日	2007年8月31日	2007年8月31日
所要時間	45分	45分	35分	25分
達成目標	2005年9月6日に、台風14号の通過時に発生した局地的豪雨と錦川水害の発生メカニズムを理解する。	人工衛星リモートセンシングの利用技術を理解する。気球空撮システムの仕組みと画像解析の方法を理解する。	美川中学校のグラウンドから気球空撮システムを揚げて空中写真を撮影する。	撮影した画像から、南桑地区の地形の様子、浸水した区域がどのような場所であるかを把握する。
生成物	説明用パワーポイント、雨量・水位解析図	説明用パワーポイント	気球空撮画像	空撮画像の解析結果
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が錦川水害の体験を発表 雨量・錦川水位の観測データを解析 水害の発生メカニズムを理解 	<ul style="list-style-type: none"> 人工衛星リモートセンシングとその利用技術を講義 気球空撮システムの仕組みと操作方法を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 気球にヘリウムガスを注入、空撮システムを高度300mに上げる 地上から空撮装置を遠隔操作して画像を撮影 	<ul style="list-style-type: none"> 撮影した空撮画像をみる 空撮画像を解析する 解析した空撮画像から、南桑地区のV字谷、浸水地域の把握
ツール (特別に用意したもの)	パソコン、プリンター、液晶プロジェクター	気球空撮システム：		
場所	岩国市立美川中学校 情報ルーム	岩国市立美川中学校 情報ルーム	岩国市立美川中学校 グラウンド	岩国市立美川中学校 情報ルーム

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 実践の詳細【C. 総合的な学習時間】（メインとなる活動を45分1コマとして記入してください）

タイトル	国土数値情報を用いた美川町南桑地区における複雑地形の把握		
	国土数値情報を用いた集水域と流路網の解析	流路網解析から美川町南桑地区における複雑地形を知る	
実施日	2007年8月31日	2007年8月31日	
所要時間	45分	45分	
達成目標	鳥瞰図から錦川流域の集水域を確認し、中学校周辺の複雑地形を、流路網解析で把握する。	岩国市立美川中学校のグラウンドから周辺の複雑地形を観察し、解析した流路網の位置を確認する。	
生成物	説明用パワーポイント、流路網図	流路網図	
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥瞰図から錦川流域の集水域を確認 ・ 流路網図から、流路網の位置を各自で解析 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自で解析した流路網図を用いて、流路網の位置を確認 ・ 美川町南桑地区における複雑地形の把握 	
ツール (特別に用意したもの)	パソコン、プリンター、液晶プロジェクター、数値地図50mメッシュ(標高)、フリーソフトウェア「カシミール3D」、フリーソフトウェア「カシバード」		
場所	岩国市立美川中学校 情報ルーム	岩国市立美川中学校 グラウンド	

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 実践の詳細【C. 総合的な学習時間】 (メインとなる活動を45分1コマとして記入してください)

	高齢者への聞き取り調査と水害資料から水害を回避・軽減するプランを提案する			
タイトル	水害史料を調べる	2005年14号台風災害をもう一度学ぶ	水害体験のある高齢者への聞き取り調査	聞き取り調査のまとめ
実施日	2007年9月6日	2007年9月6日	2007年9月6日	2007年9月6日
所要時間	45分	45分	45分	25分
達成目標	生徒が岩国市に残る水害史料を整理し、過去の水害について認識を高める。	2005年9月6日に、台風14号の通過時に発生した局地的豪雨と錦川水害の特徴を再認識する。	地域に長く住み水害体験のある高齢者への聞き取り調査を実施する。	聞き取り調査をまとめ、地域の水害を回避・軽減するプランを考える。
生成物	岩国市に残るルース台風等の水害写真	説明用パワーポイント	高齢者への聞き取り調査を箇条書きにしたA0版シート	地域の水害を回避・軽減するプラン
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> 岩国市に残るルース台風等の水害写真の整理 整理した水害写真の分析 	<ul style="list-style-type: none"> 台風14号の通過時に発生した局地的豪雨と錦川水害の特徴を再認識 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者への聞き取り調査 聞き取り調査結果をA0版シートに転記 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取り調査のまとめ 水害を回避・軽減するプランの提案
ツール (特別に用意したもの)	パソコン、プリンター、液晶プロジェクター	パソコン、液晶プロジェクター	掲示用ボード、取りまとめ用A0版シート	パソコン、液晶プロジェクター
場所	岩国市立美川中学校 情報ルーム	岩国市立美川中学校 小中共用体育館	岩国市立美川中学校 小中共用体育館	岩国市立美川中学校 情報ルーム

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 実践の詳細【C. 総合的な学習時間】 (メインとなる活動を45分1コマとして記入してください)

	美川町南桑地区における浸水痕跡と避難所の調査			
タイトル	美川町南桑地区における浸水痕跡の調査	浸水痕跡調査の取りまとめ	美川町南桑地区における避難所の調査	避難所調査の取りまとめ
実施日	2007年10月15日	2007年10月15日	2007年10月15日	2007年10月15日
所要時間	45分	45分	45分	45分
達成目標	美川町南桑地区における浸水痕跡の状況を調査する。	美川町南桑地区における浸水痕跡の状況をまとめる。	美川町南桑地区における避難所の状況を調査する。	美川町南桑地区における避難所の状況をまとめ、改善点を提案する。
生成物		美川町南桑地区における浸水痕跡マップ		避難所(岩国市立美川小学校、美川基幹集落センター)の状況と改善点
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2班に分かれて、住民に浸水状況を聞き取り調査 ・ 浸水痕跡を測定・撮影 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水痕跡の調査結果の取りまとめ ・ 浸水痕跡マップの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所(岩国市立美川小学校)の調査 ・ 避難所(美川基幹集落センター)の調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所の状況をまとめる ・ 避難所の改善点を提案
ツール (特別に用意したもの)	箱尺、巻尺、デジタルカメラ、レーザー距離計、GPS	パソコン、プリンター、液晶プロジェクター	箱尺、巻尺、デジタルカメラ、レーザー距離計、GPS	パソコン、プリンター、液晶プロジェクター
場所	岩国市立美川中学校 岩国市美川町南桑地区	岩国市立美川中学校	岩国市立美川小学校 美川基幹集落センター	岩国市立美川中学校

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 実践の詳細【C. 総合的な学習時間】 (メインとなる活動を45分1コマとして記入してください)

タイトル	文化祭		アンケート調査	
	発表の準備	発表		
実施日	2007年10月27日	2007年10月27日	2007年11月2日	
所要時間	45分	25分	20分	
達成目標	本プランの成果を、文化祭で発表するための最終準備を行う。	本プランの成果を、文化祭で発表する。	本プランに関するアンケート調査を行う。	
生成物	文化祭説明用パワーポイント		アンケート調査結果	
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化祭説明用パワーポイントのチェック ・ パソコンへのファイルコピー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パワーポイントで発表 ・ 高齢者への聞き取り調査したA0版シートを掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート調査（実施校の美川中学校） ・ アンケート調査（未実施校の御庄中学校） 	
ツール (特別に用意したもの)	パソコン、液晶プロジェクター	パソコン、液晶プロジェクター、掲示用ボード	アンケート用紙	
場所	岩国市立美川中学校 小中共用体育館	岩国市立美川中学校 小中共用体育館	岩国市立美川中学校 岩国市立御庄中学校	

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

6. 実施後

参加者へのアンケート結果	本プラン後に実施したアンケート調査では、2005年台風14号の概要や1951年に甚大な被害をもたらした台風名、避難所の場所等についての質問に対して、実施校の美川中学校の生徒は未実施校の御庄中学校よりも正答率が高かった。この結果から、本プランの実施により、防災や水害に関する理解度や興味・関心が向上した等の実施効果が確認できた。	
成果として得たこと	大学での防災研究・教育の成果を、今回のようなプランを立案して、実践に当たって十分な準備をすることにより、中学生に対しても大きな防災教育の成果を上げることが出来ることが解った。また、各実践プランに対して、テキストの作成、観測機器の整備を行ったことにより、今後も同様な水害常襲地において本プランを実施することができる目処がついた。	
成果物	<p>本プランの実施した際の説明用パワーポイント、中学生を配布したテキスト、本プランの実施内容をまとめて、日本農業気象学会中国・四国支部大会で発表した講演要旨とパワーポイント、日本地学教育学会の学会誌「地学教育」に投稿した原稿</p> <p>本プランの実施効果を検証するために、実施校の岩国市立美川中学校と未実施校の岩国市立御庄中学校で行ったアンケート調査とその分析結果</p>	
広報方法	広報した先	山口県庁記者クラブ（山口県内の主要な15の放送局・新聞社で組織）
	広報の方法	山口県庁記者クラブへ、本プランの実施内容を紹介した印刷物を配布（投げ込み）した。
	取材に来たマスコミ	新聞社（中国新聞、毎日新聞、読売新聞） テレビ局（NHK山口放送局、TYS山口放送）
	広報された内容	気球空撮システムによる水害地の複雑地形をみる。水害地の浸水痕跡を調査する等の野外現地調査。
	成功点	山口県庁記者クラブへの配布は、一度に主要な放送局・新聞社へ広報が可能のため、きわめて効果的であった。
	失敗点	本プランの実施内容を紹介した印刷物の配布（投げ込み）が直前（実施の約2日前または前日）であったことから、新聞社やテレビ局が取材の日程を組むことが出来ず、取材をすることが出来ない社局も見受けられた。

2007年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

<p>全体の感想と 反省・課題</p>	<p>国立大学法人山口大学・地域防災ユニットでは、地域防災に関する様々な研究調査に取り組んでおり、その成果を本プランに活用できたことは、地域防災力の向上、地域社会への貢献の面からも、きわめて有意義な活動であった。とくに、本プランに参加した大学院生・学生は、大学での研究成果が地域の防災教育に活かされていることを実践することが出来て、きわめて有意義な体験であった。</p> <p>岩国市立美川中学校の生徒は、自分たちが住んでいる美川町を流れる錦川が持つ平時の自然な光景、2005年台風14号による水害時の脅威を実感していることから、本プランはきわめて身近に起こった水害をテーマにしたことで、生徒全員が真剣に取り組む姿勢が随所で認められた。</p> <p>全校生徒25人の過疎地の小規模な中学校に、自分たちの本プランの活動を新聞社やテレビ局が取材に来たことは、大変驚きであり、新鮮な体験であったと感じられた。自分たちの活動内容が報道されたことにより、次回の活動の実践の際に積極的に取り組む熱意が感じられた。</p> <p>この実践活動での体験を通じて、美川中学校の生徒が地域の防災活動に積極的に貢献できることを期待している。</p>	
<p>今後の予定</p>	<p>来年度以降の 取り組み方</p>	<p>来年度は、戦前の周防灘台風と1999年の台風18号で甚大な高潮災害に見舞われた山口県宇部市の厚東川流域を対象に、本プラン「水害常襲地における水防災教育プログラムの開発と実践」を実施する予定である。</p>
	<p>ぜひ実施して みたい取り組み</p>	<p>本プラン「水害常襲地における水防災教育プログラムの開発と実践」の成果は、わが国の水害常襲地にも利活用が可能である。機会があれば、九州等の水害常襲地で本プランを実践してみたい。</p>
<p>自由記述</p>	<p>実施内容の変更、支出金額の変更等で、委員の承諾を得て事務局に報告する事務的な手間がかかった。助成金により実施されているため、このような手順で変更申請を実施することは必要ではあるが、もう少し簡素化することは出来ないものかと考える。</p> <p>最終報告書の様式は変更しないで、10.5pで「プランタイトル」を記載することすら物理的に不可能な様式となっている。最低限の様式変更、フォントを小さくするなどの変更は認めて欲しい。</p>	